

第 22 回精華町環境推進委員会 会議録

会議名	第 22 回精華町環境推進委員会		
開催日時	令和2年8月 7 日(金) 14:00~16:00		
開催場所	精華町役場 図書館集会室		
出席者	委員	上甫木委員長、畑中委員、寺本 和生委員、寺本 英樹委員、中筋委員、 信田委員、鷹居委員、山本委員 (敬称略・順不同)	
	事務局	精華町 健康福祉環境部 岩前部長	
		精華町 健康福祉環境部環境推進課:竹島課長、藤原、佐藤 (敬称略)	
		(株)地域計画建築研究所(アルパック) :中川、益戸 (敬称略)	
欠席者	岩本 登志男(精華町町政協力員協議会)		
傍聴の可否	可	傍聴者数	0 人
傍聴不可・一部不可の場合、その理由			
会議次第	<p>1. 開会あいさつ</p> <p>2. 議事</p> <p style="padding-left: 20px;">① 今年度の進め方について</p> <p style="padding-left: 20px;">② 第2次精華町環境基本計画について</p> <p style="padding-left: 40px;">・改定方針および施策体系案について</p> <p>3. 閉会</p> <p>資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料1 令和2年度スケジュール ・ 資料2 第2次精華町環境基本計画改定方針および施策体系案について ・ 参考資料1 第21回精華町環境推進委員会会議録 ・ 参考資料2 第1次精華町環境基本計画総括概要版 		

1. 開会

・委員の交代について

事務局

精華女性の会の井澤委員に代わり、中筋委員が就任。

環境ネットワーク協議会の木下委員に代わり、信田委員が就任。

町政協力員協議会の井上委員に代わり、岩本委員が就任。

・健康福祉環境部長あいさつ

2. 議事

① 今年度の進め方について

寺本和委員 ヒアリングの日程調整はいつを考えているか。

事務局 後日改めて連絡し、日程調整を行います。

上甫木委員長 事業者ヒアリングは5社程度予定しているが、5社一斉に行うのか個別に行うのか教えてほしい。

事務局 コロナの状況もあるので、基本的には個別に行うことを考えていますが、事業者と相談しながら内容については検討していきたいと考えています。

上甫木委員長 一斉のヒアリングだと日程調整が難しいという声もあり、個別の方が良いと思うのでなるべく早めに調整していただきたい。

寺本和委員 事前に打ち合わせして、各社の日程はこちらでまとめる。

事務局 ご指摘いただいた形で、進めていきます。

上甫木委員長 例年であれば年次報告の作成が主であるが、今年は計画改定でご負担をかけますが、ご意見等をお願いしたい。

② 第2次精華町環境基本計画について

上甫木委員長 ご意見、ご質問はいかがか。

鷹居委員 p13,計画体系案の”資源・気候変動”の目標の取組(1)④にある気候変動適応は大雨等への適応と考えて良いのか。

事務局 災害に対する適応だけでなく、日常生活や農業関係等幅広く考えているが、まずは気温が上がった時の生活等について示すことを検討しています。

上甫木委員長 すでに町で独自の取組は行っているか。

事務局 気候変動適応策としてはできていない状況です。2次計画を策定するとき

に、検討を行います。

山本委員 目標2にある森林環境譲与税とは何か。

事務局(AR) 国(林野庁)が開始した制度で、その背景には、森林荒廃による土砂崩れの発生等災害が発生しており、森林に対して公的資金を投入し整備する必要性を感じたためです。主には森林整備や木材活用のために利用されています。森林面積と森林従事者、人口から各自治体に割り振られており、使用用途を各自治体が検討し始めている状況です。

山本委員 森林活用するときに補助が出るということか。

事務局(AR) 使い方については今後、町が詳細なことを決めますが、そのようなイメージです。

山本委員 里山の森林の使用目的が不明。昔は木を燃料として利用していたが、現在は電気・ガスの普及で、利用しなくなったため、原野に近いくらい森林が荒れている。昔の通路が落ち葉や倒木が堆積し、野生動物(イノシシ等)の住処となっており、周辺の畑や農村に侵食している。日常生活で山の必要性がないと、人の手を加えることができないので荒廃している。その問題に対処するためのものと考えて良いのか。

AR 背景はその通りです。経済面等から整備が出来なくなっているのも、公的なお金を使うという流れが全国的にあります。

上甫木委員長 森林環境譲与税は、荒廃した山の人工林の再生と防災に対して、国がお金を付けることがはじまり。里山の農地に対しても譲与税の使用を認可してほしいとの議論もある。町では、里山再生が非常に重要な問題であるので、譲与税の使い方について研究していく必要がある。

事務局 京都府の府民税を森林保全に充てる取組が H28 年から始まっています。その財源を使った精華町での事例は、東畑の里山で荒廃した木々を間伐し整備を行いました。
本町でも森林の保全・管理を目的とした指針について産業振興課で策定しているところです。。

- 信田委員 里山問題の取組内容にあるのは、生物多様性と取組主体の問題である。里山の森林自体の保全が必要ではないのか。里山の保水機能や生産機能等追求しないといけないものがあると思うので、3番目に里山森林整備保全を追加してもらいたい。
- 現計画では、河川管理の問題が抜けているのではないか。木津川の支流にPETごみが浮遊しており、管理が必要だと思うので、事業の中に組み込みが必要ではないか。
- また、目標の”資源”の取組に脱炭素、脱プラをあげるのか議論する必要があると思う。また、項目としても入れるべきではないか。
- 事務局 森林整備や森林関係は産業振興課と今後話し合いを行う予定であり、本会議で出た意見の反映も含めて検討したいと考えています。
- 河川管理について、PETごみについては環境美化活動の推進・啓発で行っていきませんが、その他の河川管理についてはご意見をいただきたい。
- 脱炭素、脱プラについては、環境に配慮したライフスタイルの取組の中で議論していくこととなりますが、省エネ等の目標設定をどのようにするかご意見を伺いたい。
- 寺本英委員 前回の会で話したふるさと納税の取組はどうなっているか。分科会の設置やスケジュール調整等は進んでいるのか、検討中なのか教えていただきたい。
- 参加企業が多いので、状況が分かれば協議委員会の中で準備が行える。
- 事務局 ふるさと納税の担当課への相談を検討しているが、庁内の調整はまだできていません。
- 上甫木委員長 担当課と企業との連携はできているのか。
- 事務所 ふるさと納税について、正式な話としては担当課に通していません。庁内ヒアリングの際に話をする予定です。
- 上甫木委員長 協議会として地域での環境活動の取組はされているか。
- 寺本英委員 協議会独自に年間スケジュールを組み、年数回町内の清掃作業を行っている。協議会の中でこの活動の目標をもって実施、検証も行っている。まちづくりの環境を守るのは人材育成も必要だと考えており、小中学生を受け入れ、職場体験等企業のことを知ってもらう活動を数年間継続的に行っている。

る。継続的に必要な人や教育に関する活動を町と密接に行えれば良い。

上甫木委員長 p13に計画背景があり、目標やそれに伴う取組について記述されている。取組の中には企業と連携し、企業が持つ技術等を地域に展開するという提案があるが、このような提案は各企業に働きかけるのかまたは協議会で検討するのかどうかをご意見いただきたい。

寺本英委員 各企業の出身地は異なり、色々な所から来ているが、地域に愛着を持ちたい。精華町でまちづくり事業を行っているが、町役場と密接な協力関係や持続するような活動を行いたい。環境問題に限らず、行政と企業の一体感をどのようにつくるのか。民間側からだけでなく、行政側からも歩み寄ってもらわないと難しいと思う。

寺本和委員 ふるさと納税と町・企業の協力との話のつながりを理解されていないと思う。町に長く在住している企業(商工会)は町政についても分かるが、他から来ている企業(まちづくり協議会)は町に在住していない経営者もあり、その人は在住している自治体に税金を納めている状況である。一般的なふるさと納税とは、本来自治体に払う税金の一部を他の自治体に納税することで返戻金をもらうというものである。今回挙げているふるさと納税は一般的なものと異なり、精華町で事業をしている町民でない経営者が、精華町に支払っている法人税とは別に、仕事をさせてもらっている町のために個人が支払う税金の一部を町に納め、町内の清掃等の町をきれいにするためにふるさと納税を使用するという仕組みを作れば、町外の人でも精華町のために税金を使えるのではないかと。さらに、このふるさと納税を利用し、町の環境を良くするために使われれば良いのではないかと。一般的なふるさと納税と違い、有効的な使い方だと分からないと今の話は理解できない。

畑中委員 昔から町のコミュニティがしっかりしているところでは、町民は町外の人に対しては無頓着であるため、他所から来た人が疎外感を感じることがあり、精華町もこの状態ではないかと。今回の見直しの中で、地域コミュニティや新しい世代の取り込み等があるので、新しく町に来た人を従来の地域コミュニティに溶け込ますプロセスの段階を向かえているのではないかと。

寺本英委員 町外から来た人の疎外感は感じているわけではないが、民間企業では、事業計画等を株主総会で検証されるので、具体的なものがないとモチベーシ

ョンにつながらない。民間企業としては 1, 2 年経っても変わらないと事業等するのが厳しい。

畑中委員 行政の時間の流れと民間企業の時間の流れのスピードが異なる。民間企業の時間の流れが早いので、両者のマッチングを今回してはどうか。

上甫木委員長 数値目標がないことに関して意見はないか。

畑中 無理な数値設定はいらないと思うが、取組等の動向が分かる数値等は必要である。例えば、町と企業の連携数等を商工会に相談できれば良い。

寺本英委員 ヒアリングの時、具体的なものが欲しい。

上甫木委員長 協力や信頼関係は難しいものではなく、積み重ねが重要だと思う。取組の連携数を指標にしてはどうか。

事務局 町のふるさと納税の流出額が多く(ワースト10、H29 年度)、本来町に納められる税金が残らず、他市町村等に流出しました。この原因としては、町として返礼品競争に巻き込まれることを避けるため返礼品を設定してこなかったことがあります。ふるさと納税の流出のみが続くことは問題があるため、精華町らしい返礼品を含めて再度制度を練り直しています。ふるさと納税の柱を5つ設定し、主には健康面(町民の健康促進)と教育面(吹奏楽等の環境整備)の2つに突出して行っています。5つの柱の中に環境があるが、どの分野に使用するか、明確に示されていない状態です。

中筋委員 女性の会では、環境問題の観点から食ロスや木津川ごみ清掃に参加した。

信田委員 目標数値について、計画前には数値目標を具体的に出す必要があるのではないか。10年の計画の中で、1年ごとにどのように落とし込んでいくのかは必要だと思う。

一般的な環境マネジメントであれば、年度ごとの目標や計画があり、具体的に落とし込みを行うが、現在は大枠を決める段階なので、具体的なことはもう少し後で良いのではないか。

上甫木委員長 資料 2,p3にある長期展望について、計画にどのような記載を考えているか。

事務局(AR) 温室効果ガスの排出量やパリ協定等、日本だけでなく世界的にも 2050 年までにどう社会を作っていくのか掲げられていたことから、短期の 2030 年だけでなく、長期の 2050 年を見据えて、この 10 年で何をするのかを計画案に組み込んでいます。

信田委員 行政が計画内の取組にどのような関わり方をするのか。今までの取組は、事業主体の行政の担当部門のみが行っている。長年 ISO やエコステージに関わっているが、行政は各種事業の担当部署のみに関わるだけで良いのか。本庁の CO2 のみを取り組んでおり、それ以外のサイトはどのようになっているのか。また、本庁の適応範囲はどうか、総務課だけで良いのか。今後もこのまま続けていくのか。遵守すべきものは何か等、色々と疑問に思うことがある。災害を含めて緊急事態は担当部署だけの問題と考えて良いのか、また、その対応をどうするか。マニュアル等は存在するのか。行政で事業はされているが、事業を行う際、環境問題をどこまで考慮に入れるのか。行政が関わる環境問題は幅広いが、日常業務をそのような点を捉えて行っているのか疑問に感じている。計画の具体的目標値等の設定はどうしているか踏み込んで考えてほしい。

事務局 環境の範囲は全課にまたがっており、具体的な形には至っていません。各々の部署で使える包括的なマニュアルの整備は現時点では厳しいと考えています。町の SDGs の取組についても、どの課がリーダーシップをとるか決まっておらず、また、色々な施策をどのように統括して進めていくかという課題もあります。SDGs は 2030 年と期限が迫ってきているので、早急な対応が必要であると認識はしています。庁内の各課が基本計画内のどの項目を事業として取り組んだかを示した年次計画の達成度合があります。その中の KES の関係については、精華町の事業者としてどのような取組をするかという内部の事業所として取組のスタンスであり、総務課が全ての課の目標設定をし、1 年ごとに検査機関から検査を受けています。目標等を掲げた計画とともに実施計画も策定していますが、この実施計画の細部は本計画では網羅しきれていません。実施計画の 1 つとしてリーディングプロジェクトを行い、目標達成のために 7 つの項目に分けて取組を進めたので、数値目標は入っていません。第 2 次計画のリーディングプロジェクトについては数値設定を行い、実施するかどうかは意見を伺って検討します。

上甫木委員長 第1次計画では環境部局が基本計画を作り、各関係課に環境に対する理解をつけたのは1つの成果である。横断的・統合的なマネジメントは今後進めていく必要があるが、その取っ掛かりが第2次計画ではないかと捉えている。

目標について、大きな方向性を示す目標や具体的な取組(リーディングプロジェクト)を軸とした2段構えの目標の考え方もあるのではないか。また、町の規模を考えると行えることが限られているので、それを考慮したものにしてはどうか。

上甫木委員長 今回の会議で気になったキーワードがあった。

歴史・文化を軸にしたコミュニティの再生や町と企業との相互の協力関係・信頼関係が非常に重要な視点である。歴史文化や地域資源は時間経過とともに発見され、新たな地域資源の創出というキーワードや歴史文化が蓄積した時間軸の中で愛着を醸成するという理念を取り入れたら良いのでは。

地域循環に関して、地域経済に特化したものではなく、地域文化や歴史なども含めた循環として捉えてはどうか。

信田委員 計画案に対象地域の中で広域行政についてある。広域開発等の検討や事例があるのか、次回までに調査してほしい。

循環型社会について、公共交通機関には電動自転車や電気自動車だけでなく、自転車や徒歩の利用も含めて、選択する人のための流動策が必要ではないか。次回までに検討していただきたい。

上甫木委員長 ご意見、ご質問がなければ審議を終了いたします。

3. その他

事務局 ご意見等が他にございましたら、環境推進委員会にご連絡をお願いします。次回の委員会は11月9日(月)午後に予定しています。

4. 閉会